

女性の余暇活動に影響を及ぼす 要因に関する研究(1)

—妻の余暇活動に対する夫婦の意識調査から—

○野村一路(日本体育大学)

藤本祐次郎(日本体育大学) 藺田碩哉、三宅基子(財団法人日本レクリエーション協会)

余暇活動 女性 疎外要因

1. 緒言

平成2年の総理府による「女性に関する世論調査」において、「男は仕事、女は家庭」の考え方に同感しないと答えた割合は、女性では4割を越え、それを裏付けるように働く女性の割合も増加している。一方で働く女性の平日の自由時間は増えている(1990国民生活時間調査)など、女性をとり巻く社会状況は大きく変化し、女性自身の生き方も多様化してきている。こうした現状の中、筆者らは「女性の余暇活動参加歴」に関しての報告において、女性の余暇活動経歴には、結婚や家事・育児により余暇活動を中断するという女性特有の経歴パターンを、「仕事が忙しくなった」として中断する男性の場合と比較対象しつつも、結婚、出産・育児などは余暇活動への参加に単にマイナス要因として働くだけではなく、プラスに働くという要因をもつことも報告した。(1990 L&R研究所自由時間研究)

しかしながら、今後の余暇活動をおこなう上での必要条件をみると、男女共に上位2項目が「時間」と「金」であったのに対し、女性は次に「家族の理解」を挙げていたことは注目すべきことである。女性の社会参加を進めるなかで、その必要な方策として「学習や訓練の場を増やす」と同時に「男性も女性も対象に仕事と子育ての両立を支援する体制の整備を図る」が挙げられている(1990 総理府)など、女性の余暇活動にとって夫である男性との関わりが重要な側面をもつものと考えられる。

2. 目的

本研究の目的は、女性の余暇活動に影響を及ぼす要因として、夫の妻の余暇活動に対する意識はどのようなものであるかについての調査をおこない、その要因となる傾向を探ろうとするものである。

3. 方法

調査対象：東京在住の夫婦200組、合計400名を対象とした。

調査期間：1991年7月27日～8月17日

調査方法：郵送による質問紙調査。有効回収数は92組 184名(男女各92名)、有効回収率は46.0%であった。

分析方法：単純集計による結果から、女性を「余暇活動をおこなっている」グループと「余暇活動をおこなっていない」グループに分類し、この2グループを基本属性とするクロス分析によりおこなった。

4. おもな結果と考察

サンプルの基本属性となる各グループの構成は、「余暇活動をおこなっている」(以下活動型という)が62.0%(n=57)、「余暇活動をおこなっていない」(以下非活動型という)

は30.4% (n=28)で、その他が 7.6% (n=7) であったが本研究の分析には含めなかった。

「活動型」と「非活動型」を比較すると、表1のように「非活動型」の方が年齢も若く、パートを含む仕事をしている割合が多く、したがって余暇時間も余暇活動にかかる費用も少ない傾向といえる。またライフコース別にそれぞれのグループを詳細に比較すると、同じ専業主婦の中でも「非活動型」は末子就学前が 30.8%と同型の中では最も多く、「活動型」の中では末子就学後が 28.3%で最も多い。したがって「非活動型」の特徴は仕事と家事の両方をこなす、また家事・育児に時間を費やすことにより余暇活動が疎外されている傾向をみることができる。

そこで本研究のねらいである2つのグループの夫の妻の余暇活動に対する意識の違いがあるかどうかについてみると、夫自身の余暇活動の現状、時間、妻の余暇活動についてどう思うか、『男は仕事、女は家庭』に同感するか、妻にとって『日常の休み』とはどんなものかなどについては有意に差はみられなかった。有意に差がみられたものは、『主婦にとっての夏休み』についての解答(P<.01)で、「活動型」の夫が妻の夏休みは何時

でも自由としているのに対し、「非活動型」の夫は自分が休みの時には妻は休めるとしている。したがって日常の生活においてはそれぞれのライフステージ、コースによる妻の余暇活動に対する要因があるが、夫が妻の余暇活動に最も影響を与える要因としては、日常の家事・育児を連続して休める態勢が夫の側にあるかが考えられる。その為には、男性がどれだけ家事・育児などを分担できるかが大きな問題となると思われる。

付記：本研究は、1991年度(財)日本レクリエーション協会レジャー・レクリエーション研究所助成研究「女性の余暇活動に影響を及ぼす要因に関する研究」の一部である。

表1. サンプルの属性

		活動型	非活動型
年齢	女性(妻)	51.0歳	45.0歳
	男性(夫)	53.8歳	47.3歳
職業	有職(パート含)	37.8%(n=17)	57.7%(n=15)
	専業主婦	62.2%(n=28)	42.3%(n=11)
余暇の費用(月平均)			
	～5,000	8.8%(n=5)	35.7%(n=10)
	5,000～10,000	33.3%(n=19)	28.6%(n=8)
	10,000～20,000	28.1%(n=16)	10.7%(n=3)
	20,000～30,000	17.5%(n=10)	7.1%(n=2)
	30,000～	10.5%(n=6)	14.3%(n=4)
余暇の時間(平日)			
	～2時間	23.2%(n=13)	66.7%(n=18)
	2時間～3時間	21.4%(n=12)	11.1%(n=3)
	3時間～4時間	21.4%(n=12)	18.5%(n=5)
	4時間～5時間	14.3%(n=8)	-%
	5時間～	19.6%(n=11)	3.7%(n=1)

図1. 夫から見た『主婦にとっての夏休み』

